

## 南魚沼産コシヒカリ 産地情報No. 2

5月を迎えた南魚沼の天候は晴れの日が多くなり、気温も20℃を超える暖かい日が続いています。あちらこちらの田んぼでは、田植えに向けた準備が始まり、雪の重みで硬く押し固まった田んぼの土をトラクターで掘り起こしています。この作業により、土の中に空気が入って乾燥が早まり、細かく土が砕けることで苗の根がしっかりと張り、丈夫な稲へと育ちます。JAでは、夏場の高温対策として深さ15cmを目安に耕す指導を実施しています。



また、4月下旬にまかれたコシヒカリの種は発芽器の中で温められ、5日くらいで白いモヤシのような芽が出そろいます。白く弱々しい芽は、強い日光に当たると傷んで枯れてしまうため、育苗初期は被覆資材などで覆って日差しを和らげています。また、被覆することで保温の効果もあり、成長とともに緑色へと少しずつ変化していきます。

今後は、被覆資材を剥がしてたっぷりの日光を当て、さらに草丈を伸ばしながら、茎が硬くなるのを待ちます。田植えの目安は、草丈12cmです。



苗の成長とともに、苗を田んぼに移植するための準備も始まりました。土を掘り起こした田んぼに水を張り、トラクターに装着された機械設備で土の表面を平らにならす<sup>しろ</sup>代かきです。田んぼを均平にならすと、苗の成長にムラがなくなり、高品質のコシヒカリが収穫できます。また、田植えを円滑に進めることもでき、苗の発育にも影響を与えます。

<sup>しろ</sup>代かきは、田植えの3日くらい前に実施される、とても重要な作業です。



今年の田植えの最盛期は、5月16日～17日となりました。草丈が12cmくらいまでに生長した若い苗は、田植え機で丁寧に移植されていきます。1株に植えつけられる苗は3～4本。本数を抑制することで、苗同士による田んぼの養分の奪い合いを防止して、健全な稲へと育てあげます。

今後は、天候に合わせた水管理や中間追肥などの作業が進められます。

